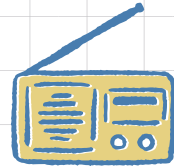


これから台風や大雨の多い季節を迎え風水害の発生しやすい時期となります。
近年の気象状況は異常気象と言われるように、大型化した台風や突発的なゲリラ豪雨による被害が全国で発生しています。
もしものときに自分や大切な人を守るために、今できる「災害への備え」を確認しておきましょう。

02 災害が起きそうなときにできること



- ☐ 防災情報を収集し、状況を把握 ※下図 1 参照
テレビやラジオなど市の防災アプリ、防災行政無線で情報を知って早めの準備を進める。
- ☐ 暴風対策
窓を守ることは家全体を守ることに繋がります。拡散防止フィルムを事前に貼っておく。
物干し竿、サンダル、植木鉢などは室内へ、家に入らないものは、しっかり固定などをする。
- ☐ 浸水対策
ガソリンは満タンにする、車は安全な場所へ、大切な貴重品、備蓄品などは高い所へ移動。
- ☐ 停電対策
懐中電灯やラジオ、モバイルバッテリーを用意。パソコン・携帯電話の充電をしておく。

図 1 警戒レベルは「色」に注目しよう！

警戒レベル	とるべき行動	気象庁の情報
5	命の危険 直ちに安全確保	氾濫発生情報 大雨特別警報
4	危険な場所から 全員避難	土砂災害警戒警報 氾濫危険情報 高潮特別警報 高潮警報
3	危険な場所から 高齢者等は避難	大雨警報（土砂災害） 洪水警報 氾濫警戒警報 高潮注意情報
2	避難行動を確認	氾濫注意報 大雨注意報 洪水注意報 高潮注意報
1	災害への心構え	早期注意報（警報級の可能性）

レベル 4 紫色

危険な場所から全員避難しましょう。

レベル 3 赤色

高齢者等は、すぐ避難しましょう。

レベル 2 黄色

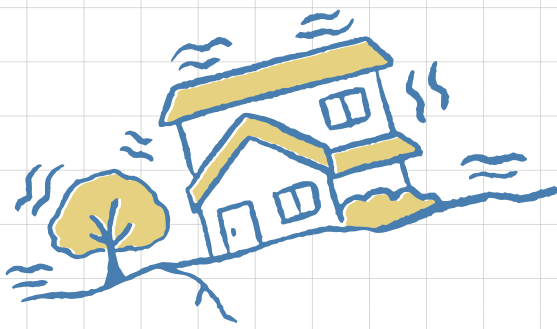
テレビやラジオなどで情報を知って早めの準備を進める。

※高齢者等…避難に時間を要する高齢者および障害のある人など。

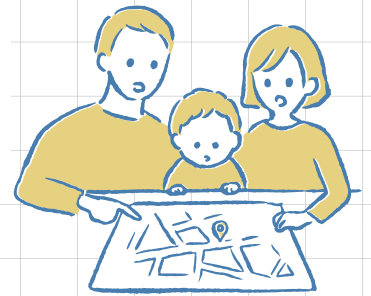
安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。
避難先は指定避難所だけではありません。安全な親戚・知人宅などに避難することも考えましょう。

いざ災害が起こったとき、あなたは行動できますか？
予想を遥かに上回るのが現代の災害です。
明日起こるかもしれない「もしも」に備えるために、
この機会に考えてみませんか？





梅雨時期の 台風・大雨に備えて



01 普段からできること

- ☐ 屋内・屋外を問わず危険箇所の点検
家具が転倒しないように固定する、庭やベランダにある風で飛びそうな物は固定するなど。
- ☐ 普段から排水溝や側溝の手入れ
水が流れず溜まらないよう家の周りの排水をよくする。(土や木の葉など)
- ☐ 非常持出品を準備
非常持出品を玄関など出しやすい場所に置いておく。また定期的の中身の点検を行う。
- ☐ 避難場所を確認・連絡方法の確認
最寄りの避難所、避難経路を確認しておく。非常時の連絡方法を家族で話し合う。
- ☐ 市防災アプリなどを活用
携帯電話にダウンロードして、普段から使い方に慣れておく。
ハザードマップなどで災害の想定区域や避難場所などを確認する。
停電が起きたときに場所を確認できるアプリをいれておく。



▲市防災アプリ



▲市ホームページ
防災情報



▲停電情報
アプリ

(九州エリア)

03 災害が起きたら～避難するとき～



- ☐ 防災情報を収集し、状況を把握
テレビやラジオなど市の防災アプリ、防災行政無線で情報を知って早めに避難する。
- ☐ 行動しやすいように
ひもでしめられる運動靴を脱げないように履き、持ち物は最小限にして背中に背負うなどして
両手が使えるようにしておこう。
- ☐ 浸水したときの注意
水の下には何があるかわかりません。溝に落ちたり、マンホールや石などにつまづいたりしない
ように、安全を確かめながら歩こう。

自主防災組織の設立が役に立つ？

問合せ先 防災課防災安全係 ☎内線 317

各地区に自主防災組織を設立すれば、災害などが起きた際に地域みんなで声を掛け合って協力し、一人一人の命を守ることがより可能になります。

いざという時に備えて、自主防災組織を作りませんか？自主防災組織の設立については、市役所防災課にお尋ねください。